

令和7年度(2025年度)

病害虫発生予察情報 第17号

7月月報

北海道病害虫防除所 令和7年(2025年)8月15日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－これまでの7月としての記録を大きく上回る歴代1位の高温。－

7月は、偏西風が北に蛇行し、暖かい空気に覆われやすかった。それに加えて、低気圧が北海道の北を通過することが多く、暖かい空気が流れ込みやすかった。また、湿った東風の影響を受けにくかったため、晴れた日が多かった。これらの要因により、北海道地方の気温はかなり高く、日照時間はかなり多かった。月平均気温の平年差は、これまで1位だった2023年の+2.9℃を大きく上回る+4.8℃となり、1946年の統計開始以降、7月として第1位の記録となった。低気圧の影響を受けにくかったことに加えて、日本海から北海道に侵入した停滞前線に伴う降水域が、山岳で遮られやすかったため、太平洋側では降水量はかなり少なかった。

上旬：低気圧や前線の影響を受けにくかったため、晴れた日が多かった。このため、北海道地方の日照時間はかなり多く、降水量は少なかった。また、暖かい空気に覆われやすかったため、気温はかなり高かった。旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降、7月上旬として第1位の記録となった。

中旬：前線や暖かく湿った空気に伴う降水域が日本海から侵入しやすかったため、日本海側とオホーツク海側の降水量は多く、山岳に降水が遮られた太平洋側の降水量は少なかった。また、湿った東風の影響を受けることが少なかったため、オホーツク海側の日照時間は多かった。暖かい空気に覆われやすく、さらに南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北海道地方の気温はかなり高かった。旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降、7月中旬として第1位の記録となった。

下旬：高気圧の勢力圏内となりやすかったため、晴れた日が多かった。このため、北海道地方の降水量は少なく、日照時間は多かった。また、暖かい空気に覆われやすかったため、気温はかなり高かった。特に22日から25日にかけては全道的に高温となり、28のアメダス地点で日最高気温が通年の極値となった。旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降、7月下旬として第1位の記録となった。

気候表(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間は比(%))を示す)

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22 地点平均	+4.8	か高	65	少	133	か多
日本海側10 地点平均	+4.4	か高	79	並	124	多
オホーツク海側4 地点平均	+6.1	か高	78	並	139	か多
太平洋側8 地点平均	+4.8	か高	42	か少	142	か多

注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。

各階級の幅は、平年値の作成期間(1991～2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。

なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

Ⅱ. 病虫害発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生量 並

予察田における葉いもちの発生量は、北斗市で平年より多く、岩見沢市及び比布町で平年よりやや少なかった。

一般田における巡回調査によると、7月6半旬に上川地方の1地点で発生が認められた。

予察田における葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	0	0.6	1.0	2.8	10.0	15.1	10
比布町	ななつぼし	0	2.0	14.0	13.6	25.0	32.3	9
北斗市	きらら397	23.0	1.8	25.0	9.9	26.0	19.7	10
	ななつぼし	25.0	－	33.0	－	37.0	－	－

注) 北斗市「ななつぼし」は平年値なし

注) 岩見沢市及び北斗市の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田におけるいもち病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	本所	6	0	0	0	0	渡島	本所	1	0	0	0	0
	南東部	2	0	0	0	0	檜山	本所	2	0	0	0	0
	南西部	4	0	0	0	0		北部	2	0	0	0	0
	中空知	4	0	0	0	0	上川	本所	7	0	0	0.0	0
	北空知	6	0	0	0	0		富良野	3	0	0	0	0
石狩	本所	2	0	0	0	0		大雪	4	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0		士別	3	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0	名寄	3	0	0	0	0	
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	留萌	本所	4	0	0	0	0
日高	西部	2	0	0	0	0		南留萌	2	0	0	0	0

2. ウンカ類 発生期 ヒメトビウンカ(第2回)：やや早、セジロウンカ：やや早 発生量 並

予察灯におけるヒメトビウンカ第2回成虫の初発期は、長沼町及び比布町いずれの地点においても平年より早かった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、北斗市において平年よりやや早く、長沼町及び比布町において平年並であった。

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町で平年よりやや多く、比布町においては平年並であった。予察田におけるすくい取りによる捕獲数は、比布町で平年より多く、北斗市で平年並、長沼町では平年より少なかった。

予察灯におけるセジロウンカの初発期は、比布町で平年より早く、長沼町では平年並であった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、比布町で平年より早く、北斗市で平年よりやや早かった。長沼町では捕獲が認められなかった。

予察灯における成虫誘殺数は長沼町及び比布町いずれの地点においても平年より少なかった。予察田における水田すくい取りによる成虫捕獲数は、比布町及び北斗市で平年より多かった。長沼町では捕獲が認められなかった。

一般田における巡回調査によると、全72地点のうち、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数が吸汁害の発生する密度(成虫：1,800頭、または幼虫：900頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数				水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	0.1	12	2.1	0	2.8	0	2.5	2.5	1.5
2半旬	-	2.8	334	4.6	25.0	9.0	0	3.5	2.5	2.3
3半旬	191	10.6	270	13.2	2.5	7.6	25.0	5.5	0	3.0
4半旬	123	168.5	264	106.6	5.0	9.6	30.0	14.3	7.5	4.0
5半旬	199	50.0	280	152.6	0	20.5	135.0	50.5	5.0	10.3
6半旬	106	209.4	900	1582.9	2.5	16.8	85.0	117.0	12.5	7.3
初発期	6月26日	7月10日	6月30日	7月6日	7月10日	7月10日	7月11日	7月11日	7月1日	7月4日
平年数	10		10		10		10		10	

注1) 初発期は第2回成虫

注2) - : 欠測

セジロウンカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数				水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	5.0	3.0
2半旬	- 注1)	0	0	0	0	0	0	0.3	0	5.3
3半旬	0	0	0	0.2	0	0.3	0	0.5	0	4.0
4半旬	0	0.7	0	0	0	0	0	0	2.5	2.2
5半旬	0	0.6	1	0.2	0	0.1	5.0	1.0	2.5	1.5
6半旬	1	4.8	1	14.0	0	2.4	5.0	1.0	20.0	2.0
初発期	7月29日	7月30日	7月22日	7月31日	- 注2)	8. I	7. V	8. I	7. I	7. II
平年数	10		10		10		10		10	

注1) - : 欠測

注2) - : 未捕獲

巡回調査によるヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取り数(20回振り)

普及 センター	地点 数	7月6半旬		普及 センター	地点 数	7月6半旬	
		本年	前年			本年	前年
空知	本所	6	1.5	渡島	本所	1	0
	南東部	2	0				
	南西部	4	2.3	檜山	本所	2	1.5
	中空知	4	0		北部	2	0.5
	北空知	6	0	上川	本所	7	30.4
石狩	本所	2	17.5		富良野	3	0
	北部	7	0		大雪	4	18.5
					士別	3	0
後志	本所	4	0		名寄	3	0
胆振	東胆振	4	0	留萌	本所	4	0
日高	西部	2	0		南留萌	2	0

3. イネドロオイムシ

発生量 少

予察田における幼虫数は、長沼町で平年より少なかった。被害株率は、長沼町で平年より低かった。比布町では幼虫の発生、被害とも認められなかった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、全72地点のうち、移植栽培で減収する被害葉率70%に達した地点はなかった。

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況

月・半旬	水田見取り調査による幼虫数(25株あたり)				被害株率(%)			
	長沼町		比布町		長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	26	99.9	0	4.7	64.0	97.0	0	4.4
2半旬	28	73.9	0	5.1	76.0	100.0	0	10.0
3半旬	13	52.7	0	6.4	80.0	100.0	0	14.5
4半旬	7	27.3	0	3.0	80.0	98.4	0	16.5
5半旬	6	15.8	0	0.6	72.0	99.0	0	16.0
6半旬	5	3.7	0	0.7	60.0	98.7	0	9.5
平年数	10		10		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの幼虫数および被害葉率

普及センター		地点数	幼虫数		被害葉率(%)	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	本所	6	0.8	8.8	0	6.7
	南東部	2	0	0	0	0
	南西部	4	0	0	0	0
	中空知	4	0	4.8	0	0
	北空知	6	0	0.3	0	0.9
石狩	本所	2	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	0	0
日高	西部	2	0	0	0	0

普及センター		地点数	幼虫数		被害葉率(%)	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
渡島	本所	1	0	0	0	0
	檜山	2	0	0	0	0
上川	本所	2	0	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0
	本所	7	0	0	0	0
	富良野	3	0	0	0	0
	大雪	4	0	0	0	0
	士別	3	0	0	0	0
	名寄	3	0	0	0	0
留萌	本所	4	0	0	0	0
	南留萌	2	0	0	0	0

注) 幼虫数は25株あたり

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第2回)

発生期 早

発生量 多

＜7月18日付け注意報第6号＞

予察灯による第2回成虫の初発期は、比布町で平年より早く、長沼町で平年よりやや早かった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、長沼町及び比布町で平年より早く、北斗市では平年よりやや早かった。

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町及び比布町いずれの地点においても平年より多かった。予察田における水田すくい取りによる捕獲数は、比布町で平年より多く、長沼町で平年並、北斗市で平年より少なかった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、水田すくい取りによる発生モニタリングでの「ななつぼし」の追加防除の基準である捕獲数1頭以上となった水田は、全72調査地点のうち、空知、石狩、胆振、日高、上川、留萌地方の計36地点、「きらら397」及び「ゆめぴりか」の追加防除の基準である捕獲数2頭以上となった水田は、空知、石狩、上川、留萌地方の計21地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数				水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	11	10.3	7	1.4	0	0.3	0	0	0	1.3
2半旬	—	77.9	18	3.9	2.5	0.3	0	0	0	0.5
3半旬	307	197.6	150	13.8	2.5	0	0	1.0	0	0.8
4半旬	426	715.1	310	37.1	0	2.6	20.0	5.0	0	0.3
5半旬	3760	557.6	98	30.1	13.0	6.8	15.0	2.5	2.5	2.0
6半旬	1267	1024.3	16	123.1	0	7.1	0	2.5	0	4.2
初発日	6月30日	7月5日	7月3日	7月9日	7月10日	7月27日	7月16日	7月23日	7月21日	7月24日
平年数	10		10		10		10		10	

注) —: 欠測

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成幼虫の20回振りすくい取り数

普及センター		地点数	畦畔				水田	
			7月3半旬		7月6半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年	本年	前年
空知	本所	6	0.5	0.2	1.5	0.2	3.8	2.7
	南東部	2	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0
	南西部	4	1.5	0	0.3	2.0	3.0	0
	中空知	4	3.3	1.5	2.8	0.8	1.5	0.8
	北空知	6	12.2	2.1	2.3	8.9	1.0	6.9
石狩	本所	2	0	0	0	0	0	0.5
	北部	7	0	0	0	0	1.1	0
後志	本所	4	0	2.0	0.3	0.3	0	0.5
胆振	東胆振	4	0.5	0.3	0	0.3	0.5	0.3
日高	西部	2	0	0	0.5	0	0.5	0.5
渡島	本所	1	0	0	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0.5	1.0	8.5	0	0
	北部	2	0	0	0	0.3	0	0
上川	本所	7	3.1	3.4	1.3	1.4	2.0	1.3
	富良野	3	0	1.3	0.3	2.7	1.7	0.7
	大雪	4	0.5	1.5	0.3	1.5	2.3	1.3
	士別	3	2.0	1.7	0	5.3	1.0	1.0
	名寄	3	6.3	0	0	0	0	0
留萌	本所	4	9.3	1.3	0.8	0.8	3.3	1.0
	南留萌	2	2.0	0	0	0.5	3.5	1.0

5. フタオビコヤガ 発生量 やや少

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町で平年並であった。比布町では誘殺が認められなかった。幼虫による予察田の被害株率は、長沼町で平年並であった。比布町では被害が認められなかった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	予察灯誘殺数				被害株率(%)			
	長沼町		比布町		長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	2.0	24	14.0	0	3.1
2半旬	-	0.6	0	2.7	36	17.6	0	2.2
3半旬	0	0.7	0	2.0	48	24.0	0	6.0
4半旬	0	0.5	0	2.1	44	47.0	0	8.5
5半旬	1	0.1	0	1.1	40	51.0	0	10.3
6半旬	1	1.6	0	17.6	56	64.0	0	7.4
平年数	10		10		5		8	

注) - : 欠測

B. 秋まき小麦

1. 赤かび病 発生量 少

予察ほの「きたほなみ」における発生量は、芽室町では平年並、長沼町では平年より少なかった。発生菌種は、2地点とも *F. graminearum* の割合が高かった。訓子府町では発生が認められなかった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)				
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.	不明
長沼町	きたほなみ	0.5	7.1	10	9.5	0	90.5	0	0
芽室町	きたほなみ	10.4	7.1	10	23.3	3.3	73.3	0	4.0
訓子府町	きたほなみ	0	10.2	10	-	-	-	-	-

注) M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F. graminearum*、F.cul.: *F. culmorum*、不明: 菌種不明

注) 訓子府町は発生なし

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は、訓子府町で平年より少なかった。長沼町では発生が認められなかった。ムギクビレアブラムシは、長沼町及び訓子府町いずれの地点においても発生が認められなかった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の寄生虫数(25穂あたり)

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	3.1	0	8.2	0	1.4	0	1.6
2半旬	-	1.3	0.5	5.8	-	1.0	0	2.1
3半旬	-	0.2	-	3.1	-	0.3	-	0.1
4半旬	-	0	-	3.6	-	0	-	1.3
平年数	10		9		10		9	

注1) 25穂あたりの寄生虫数

注2) - :調査不能

C. 春まき小麦

1. 赤かび病 発生量 少

予察ほの「春よ恋」における発生量は、比布町では平年よりやや少なく、長沼町では平年より少なかった。発生菌種は、2地点とも *F. graminearum* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	春よ恋	5.8	30.0	10	0	0	100.0	0
比布町	春よ恋	0.2	2.3	10	0	11.1	88.9	0

注)M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

D. とうもろこし

1. オオタバコガ 発生量 やや多 <6月20日付け注意報第2号>

フェロモントラップによる誘殺数は比布町及び北斗市で平年より多く、長沼町では平年並であった。訓子府町では誘殺が認められなかった。

オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	4	2.2	1	0.3	0	0	0	0
2半旬	1	0.3	3	0.1	0	0	0	0
3半旬	1	0.5	1	0.1	0	0.1	0	0
4半旬	0	0.8	1	0.1	0	0	0	0
5半旬	0	0.4	0	0.6	0	0	0	0
6半旬	0	0.4	0	0	6	0.2	0	0
平年数	10		10		10		8	

E. 豆類

1. べと病（大豆） 発生期 遅 発生量 少

長沼町の予察ほにおける発生期は、平年より遅かった。発生量は、平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品 種 名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	8月8日	7月21日	0	0.2	0	1.6	0	10.0	10

2. 菌核病（菜豆） 発生量 少

芽室町の予察ほでの発生は確認されていない。

7月6半旬の一般ほにおける巡回調査によると、いずれの地点においても発生は認められていない。

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	未発生	7月20日	0	0.9	0	2.5	10

一般ほにおける菌核病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	0	十勝	本所	3	0	0
上川	士別	1	0	0		東部	8	0	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	2	0	0
						北部	3	0	0
						西部	1	0	0

3. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生期 やや遅 発生量 少

予察ほにおける発生期は、長沼町（小豆）では平年よりやや早く、芽室町（菜豆）では平年より遅かった。発生量は、長沼町及び芽室町のいずれにおいても平年より少なかった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、小豆では十勝地方で、菜豆では上川及び十勝地方で発生が認められている。

予察ほにおける灰色かび病発生状況（小豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	7月30日	8月2日	0	0	0	0.8	10

予察ほにおける灰色かび病発生状況（菜豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月28日	7月18日	0	3.9	0	6.7	10

小豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
石狩	本所	1	0	0	留萌	本所	1	0	0
後志	本所	2	0	0	網走	本所	2	0	0
胆振	本所	2	0	0		網走	2	0	0
	東胆振	2	0	2.0		美幌	3	0	0
檜山	本所	2	0	5.0	十勝	本所	5	0	0
	北部	1	0	0		東部	8	0	0
上川	大雪	2	0	0		東北部	2	0	0
	士別	2	0	0		北部	3	1.7	0
						西部	2	0	0
						南部	7	0	0

菜豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	0	十勝	本所	3	0	1.5
上川	士別	2	4.0	5.0		東部	8	0.1	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	2	0	1.3
						北部	3	8.3	0
						西部	1	0	0

4. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 並

予察ほにおける被害程度は、大豆では訓子府町で平年よりやや高く、長沼町では平年よりやや低かった。小豆では訓子府町で平年より高く、長沼町では平年並であった。

予察ほの大豆および小豆における食葉性鱗翅目幼虫の被害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	7.2	17	2.4	6	3.6	1	0.6
2半旬	3	10.7	17	4.9	10	4.6	5	1.4
3半旬	16	14.2	21	8.7	12	6.0	9	2.5
4半旬	22	18.4	25	13.4	10	7.9	15	4.1
5半旬	23	27.9	27	19.9	15	11.4	18	7.0
6半旬	23	33.2	29	23.8	13	14.9	21	10.7
平年数	10		10		10		10	

5. ジャガイモヒゲナガアブラムシ（大豆） 発生量 少

予察ほの大豆における寄生虫数は、長沼町で平年より少なかった。訓子府町では発生が認められなかった。

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月・半旬	長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	2.0	0	2.6
2半旬	0	1.8	0	1.2
3半旬	0	0.5	0	2.0
4半旬	0	0	0	2.7
5半旬	0	0.3	0	1.1
6半旬	0	0.4	0	1.0
平年数	10		10	

注) 25株2小葉、計50小葉の寄生虫数。

6. マメアブラムシ（小豆） 発生量 少

予察ほの小豆における寄生株率は、芽室町及び訓子府町において平年より低かった。長沼町では発生が認められなかった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	9.6	8	31.0	8	11.2
2半旬	0	10.7	12	35.2	4	16.4
3半旬	0	5.3	4	29.6	0	23.6
4半旬	0	0.9	4	21.6	0	21.2
5半旬	0	0	0	7.2	0	12.8
6半旬	0	0	0	3.6	0	9.6
平年数	9		10		10	

F. ばれいしょ

1. 疫病 発生量 少

予察ほにおける発生は、長沼町、北斗市、芽室町及び訓子府町のいずれにおいても確認されていない。一般ほにおける巡回調査の報告によると、檜山、上川、十勝及び釧路地方で発生が認められた。

予察ほにおけるばれいしょの疫病初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	とうや	未発生	7月18日	8
	スノーマーチ	未発生	7月19日	8
北斗市	とうや	未発生	7月6日	10
芽室町	とうや	未発生	7月13日	8
	スノーマーチ	未発生	7月15日	8
訓子府町	とうや	未発生	7月13日	8
	スノーマーチ	未発生	7月15日	8

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度											
		7月1半旬		7月2半旬		7月3半旬		7月4半旬		7月5半旬		7月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	とうや	0	0	0	0.2	0	0.7	0	6.6	0	22.6	0	43.8
	スノーマーチ	0	0	0	0.1	0	0.9	0	5.9	0	17.5	0	30.6
北斗市	とうや	0	8.0	0	20.4	0	36.5	0	40.1	0	47.3	0	50.0
芽室町	とうや	0	0.1	0	1.7	0	5.1	0	14.2	0	40.9	0	51.1
	スノーマーチ	0	0.5	0	2.3	0	6.2	0	11.2	0	29.7	0	47.9
訓子府町	とうや	0	0	0	0.7	0	3.1	0	6.8	0	18.6	0	41.5
	スノーマーチ	0	0.1	0	0.6	0	2.7	0	5.4	0	12.9	0	35.5

注) 平年数は10年

一般ほにおけるばれいしの疫病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	1.8
胆振	本所	2	0	0	0	0
渡島	本所	1	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	13.0	0.5	13.0
	北部	2	0	0	3.5	0
上川	富良野	3	0	0	0	3.0
	大雪	2	0.5	0	1.0	0
	士別	2	2.0	16.0	44.5	50.0
	名寄	1	0	0	0	0

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	7	0	0	0	0
	清里	6	0	0	0	0
	網走	2	0	0	0	0
	美幌	2	0	0	0	0
十勝	本所	5	0	0	0	0
	東部	7	0	0	0	0
	東北部	2	0	0	0	0
	北部	3	0	0	1.7	0
	西部	2	0	0	2.5	0
	南部	7	0	0	1.1	4.1
釧路	本所	2	1.0	0	22.5	0
根室	北根室	1	0	0	0	0

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシは、長沼町及び訓子府町いずれの地点においても発生が認められなかった。ワタアブラムシの発生量は、長沼町及び訓子府町いずれの地点においても平年より少なかった。モモアカアブラムシは、長沼町及び訓子府町いずれの地点においても寄生が認められなかった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、多発生の目安となる20複葉当たり20頭の寄生頭数を越えたのは全66地点のうち、檜山地方の2地点のみであった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ				ワタアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.6	0	4.6	3.5	3.1	1.2	4.0
2半旬	0	0.4	0	6.1	2	7.4	0	8.3
3半旬	0	0.4	0	5.5	1.5	11.7	3.2	16.5
4半旬	0	0.3	0	6.3	0	17.1	3.2	26.1
5半旬	0	0.1	0	4.0	0	8.7	2	50.1
6半旬	0	0	0	1.6	0	2.2	2	27.4
平年数	10		10		10		10	

注) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしょのアブラムシ類寄生虫数

普及 センター		地点 数	7月3半旬		7月6半旬		本年優占種
			本年	前年	本年	前年	
空知	南東部	1	0	0	0	0	
後志	本所	4	0	1.0	0	0.3	
胆振	本所	2	0.5	9.0	10.0	12.0	ワタ
渡島	本所	1	15.0	13.0	15.0	5.0	ワタ
檜山	本所	2	0	0	1.0	0	ワタ
	北部	2	192.5	0	80.5	156.0	ワタ
上川	富良野	3	0	0	0	0	
	大雪	2	0	0	0	0	
	士別	2	0	0	0	0	
	名寄	1	0	0	0	0	
網走	本所	7	2.3	4.5	0.3	5.6	ヒゲナガ
	清里	6	4.0	0.2	0	2.0	
	網走	2	2.5	0.5	0.5	0	モモアカ
	美幌	2	0	0	0	0	
十勝	本所	5	0	0.4	0.2	0.2	モモアカ
	東部	7	1.0	0	0	0	ワタ
	東北部	2	4.5	0	0	0	
	北部	3	0	0	0	0	
	西部	2	0	0.5	0	0	
	南部	7	0	4.3	0	3.0	
釧路	本所	2	0	0	0	0	
根室	北根室	1	0	0	0	2.0	

注1) 10株20複葉調査

注2) ヒゲナガ: ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタ: ワタアブラムシ、モモアカ: モモアカアブラムシ

G. てんさい

1. 褐斑病 発生量 多

＜7月1日付け注意報第4号＞

予察ほにおける発生量は、長沼町、芽室町及び訓子府町のいずれにおいても平年より多かった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、空知、石狩、胆振、上川、オホーツク及び十勝地方で発生が認められ、全 73 調査地点のうちの 44 地点で発生が認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名 (褐斑病抵抗性)	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン(やや強)	6月25日	7月9日	1.6	0.2	2.4	1.8	23.2	5.8	10
芽室町	あまいぶき(弱)	7月3日	7月3日	0.4	2.4	6.0	7.0	33.5	15.0	10
	ライエン(やや強)	7月2日	7月3日	0.8	2.7	4.8	6.5	25.0	11.0	10
	スタウト(強)	7月2日	7月4日	0.4	2.7	3.6	6.2	25.0	11.3	10
訓子府町	ライエン(やや強)	6月30日	7月10日	0.8	0.5	2.0	2.2	20.0	7.7	10

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	1.0	0	2.0	1.0
石狩	本所	3	0	0	1.3	0.7
後志	本所	3	0	0	0	6.0
胆振	本所	4	1.5	0	4.0	4.3
	東胆振	3	26.0	0.7	32.7	8.3
上川	富良野	2	4.0	0	4.5	0
	大雪	2	0	0	0.5	0
	士別	4	0	0	0	1.0
	名寄	1	2.0	17.5	4.0	32.5

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	9	2.0	0	7.8	6.1
	清里	6	1.0	0.2	4.3	20.2
	網走	2	1.0	0	1.5	9.0
	美幌	5	3.2	0	3.0	0.4
	遠軽	4	2.5	0.7	2.0	9.3
十勝	本所	5	0.2	2.9	1.8	17.7
	東部	4	0.5	1.3	6.8	5.7
	東北部	2	0	3.0	0	18.0
	北部	3	0.7	0.3	12.3	53.3
	西部	3	2.0	0.7	12.0	13.7
	南部	7	0	0.7	1.0	6.4

2. ヨトウガ(第1回) 発生量 やや多

予察ほにおける見取り調査では、食害程度は、訓子府町で平年より高く、長沼町及び芽室町では平年並であった。なお、見取り調査において、長沼町では第2回成虫による産卵が確認された。

一般ほにおける7月3半旬の巡回調査によると、全73地点のうち被害株率が50%以上となったのは上川、オホーツク地方の計7地点であった。

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および食害程度

月・半旬	食害程度						卵塊数(50株あたり)					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	33	24.1	23	14.6	17	0.8	0	0.2	0	0	0	0
2半旬	40	33.5	26.5	18.9	22	3.4	0	0.4	0	0	0	0
3半旬	43	44.5	27.5	23.9	22	6.8	0	0.2	0	0	0	0.1
4半旬	46	49.5	28.5	27.9	23	9.8	0	0	0	0	0	0
5半旬	50	55.0	26	31.7	25	13.9	1	0	0	0	0	0
6半旬	51	57.1	26	33.1	27	16.7	0	0.5	0	0	0	0
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

普及センター		地点数	被害株率(%)		食害程度	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	15.0	2.0	8.0	0
石狩	本所	3	16.7	2.7	6.7	8.7
後志	本所	3	2.0	2.0	1.0	3.0
胆振	本所	4	2.5	0	5.0	0.5
	東胆振	3	25.3	12.7	12.0	15.0
上川	富良野	2	8.0	2.0	17.0	2.0
	大雪	2	0	2.0	0	1.0
	士別	4	82.5	4.0	19.8	1.0
	名寄	1	46.0	25.0	20.0	6.0

普及センター		地点数	被害株率(%)		食害程度	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	9	31.4	36.4	11.6	9.0
	清里	6	28.5	20.3	10.3	10.3
	網走	2	25.0	14.0	15.0	11.5
	美幌	5	6.2	5.2	6.2	4.4
	遠軽	4	35.3	6.7	12.8	11.0
十勝	本所	5	8.0	4.7	5.2	3.6
	東部	4	16.0	0	4.3	0.4
	東北部	2	29.5	12.5	25.5	13.8
	北部	3	21.0	7.7	6.0	13.3
	西部	3	21.3	4.3	23.0	1.7
	南部	7	22.4	6.6	11.0	5.1

H. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生量 少

予察ほにおける発生量は、訓子府町では平年よりやや少なく、長沼町では平年より少なかった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、上川、オホーツク及び十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	3.5	34.0	4.5	53.1	—	78.6	10
訓子府町	北もみじ2000	3.5	4.0	4.0	7.5	—	22.1	10

注) — :倒伏により調査不能

一般ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病巡回調査結果

平成27年度北海道農業振興計画調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	本所	5	0	0	0	41.2	網走	本所	8	0	0.8	0	4.0
	南東部	3	0	0	0	0		清里	2	0	2.0	0	38.5
	南西部	3	0	0	0	0		美幌	4	0	0	1.0	0
	中空知	2	0	22.0	0	28.0		遠軽	1	0	0	0	13.0
石狩	北部	2	0	0	0	0	十勝	本所	1	0	0	0	2.7
上川	富良野	4	0	0	4.0	0		東部	2	10.0	2.0	15.0	2.5
	大雪	1	2.5	0	0	0							
	士別	2	0	0	0	1.0							

2. ネギアザミウマ 発生量 やや多

予察ほにおける寄生虫数は、訓子府町で平年より多く、長沼町では平年よりやや少なかった。被害程度は、長沼町及び訓子府町いずれの地点においても平年よりやや高かった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、全40地点のうち、寄生株率が50%以上となったのは空知、上川、オホーツク地方の13地点であった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	成虫数(25株あたり)				幼虫数(25株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	86	77.9	651	82.8	94	179.8	1126	1072.1	41	35.4	71	65.1
2半旬	106	145.1	723	129.1	198	452.9	2894	1061.0	67	45.3	90	77.4
3半旬	—	147.4	475	122.6	—	716.5	2630	1220.7	—	54.5	100	87.5
4半旬	—	160.2	149	117.2	—	1570.2	1892	1120.4	—	62.9	100	92.2
5半旬	—	127.3	—	84.1	—	554.0	—	860.2	—	66.7	—	95.2
6半旬	—	41.6	—	77.5	—	76.5	—	984.3	—	40.5	—	96.6
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) — :倒伏により調査不能

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及センター		地点数	7月3半旬		7月6半旬		普及センター		地点数	7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	本所	5	12.8	21.6	25.6	64.0	上川	富良野	4	27.0	6.0	43.0	8.0
	南東部	3	63.3	52.0	54.3	22.7		大雪	1	20.0	15.0	35.0	20.0
	南西部	3	48.3	51.0	73.3	29.0		士別	2	92.0	5.0	100.0	100.0
	中空知	2	25.0	0	33.0	0							
石狩	北部	2	14.0	9.0	4.0	7.5	網走	本所	8	12.5	23.8	7.5	20.8
								清里	2	52.0	82.0	76.0	98.0
								美幌	4	1.0	5.0	5.0	4.5
								遠軽	1	44.0	6.0	0	5.0
							十勝	本所	1	60.0	21.3	60.0	12.0
								東部	2	40.0	36.0	42.0	0

I. あぶらな科野菜

1. モンシロチョウ 発生量 多

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町	
	本年	平年
7月1半旬	83	1.3
2半旬	110	34.9
3半旬	1	50.8
4半旬	0	68.3
5半旬	-	43.4
6半旬	-	26.3
平年数	10	

注1) 10株あたりの寄生虫数。

注2) -は調査不能

2. コナガ 発生量 やや多

＜5月13日付け注意報第1号＞

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、比布町で平年より多く、訓子府町で平年よりやや多く、北斗市で平年並、長沼町で平年より少なかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より多かった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	81	44.9	9	14.2	159	87.6	10	4.6
2半旬	64	71.4	62	18.7	150	65.4	12	2.6
3半旬	9	109.7	75	11.7	68	84.0	5	3.9
4半旬	6	89.4	13	10.3	18	70.4	6	3.5
5半旬	62	64.9	7	9.1	14	51.5	3	4.7
6半旬	16	83.1	7	5.7	13	56.8	3	4.8
平年数	10		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、比布町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町	
	本年	平年
7月1半旬	2	0.1
2半旬	307	8.9
3半旬	261	39.7
4半旬	39	142.4
5半旬	9	137.3
6半旬	0	72.0
平年数	10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

J. りんご

1. 黒星病 発生量 やや少

長沼町の予察園（無防除）での発生量は平年よりやや少なかった。一方、余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められていない。一般園における巡回調査の報告によると、発生は認められていない。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	相伝ふじ	20.7	33.7	26.3	44.3	27.1	49.4	8

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	昂林	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 余市町の予察園は慣行防除

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0	0
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 やや少

長沼町の予察園（無防除）における発生量は平年よりやや少なかった。余市町の予察園（慣行防除）では新梢及び徒長枝のいずれでも発生は認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、胆振及び渡島地方で発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	新梢	0.6	1.3	0.7	1.9	1.8	2.3	10
王林	徒長枝	0	0.7	0	1.1	0	1.6	10

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	新梢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昂林	徒長枝	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 余市町の予察園は慣行防除

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0.3	16.7
渡島	本所	1	34.8	13.9
留萌	南留萌	1	0	0

3. ハマキムシ類 発生量 並

予察園のフェロモントラップによる誘殺数は、リンゴコカクモンハマキは余市町A及びB（慣行防除）で平年並、長沼町では平年より少なかった。リンゴモンハマキは長沼町で平年並、余市町A及びBでは誘殺は認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、リンゴコカクモンハマキは札幌市、石狩市及び増毛町で平年より多く、岩見沢市で平年並であった。壮瞥町では誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキは岩見沢市、札幌市及び石狩市で平年より多く、増毛町では平年よりやや多かった。壮瞥町では誘殺が認められなかった。

予察園におけるハマキムシ類のフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	5.9	0.1	1.2	1.3	1.2	3	5.4	0	1.2	0	0.5
2半旬	1	3.2	0	0.2	1.1	0.8	11	9.5	0	0.8	0	0.2
3半旬	1	1.2	0	0.0	0.7	0.6	5	3.8	0	0.6	0	0.1
4半旬	1	1.3	0	0	0.7	0.6	0	2.5	0	0	0	0.1
5半旬	0	0.1	0.4	0	1.1	1.3	0	1.1	0	0	0	0.3
6半旬	0	0.3	0.9	0	2.3	0.8	1	1.0	0	0	0	0.1
平年数	10		10		10		5		5		5	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.6	0.8	2	2.5	1.6	0.2	0	0.4	0	0.4
2半旬	1.4	0.5	2.4	1.9	3.2	0.4	0	0.2	0.6	0.1
3半旬	0.8	0.3	2.9	1.1	0	0.0	0	0.2	0.4	0.1
4半旬	0.2	0.4	1.9	0.4	0	0.3	0	0.1	0	0.1
5半旬	0.1	0.1	2.3	0.1	0.1	0	0	0.1	0	0.1
6半旬	0.9	0.0	3.5	0.4	0.9	0	0	0.1	4	0.1
平年数	10		10		10		10		10	

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	5	0.6	5.1	2.8	3.8	0	0	0	0	0.1
2半旬	0.7	0.6	6.3	2.8	8	0.4	0	0.1	0.6	0.1
3半旬	0	0.1	7.1	2.3	9.6	0.4	0	0.5	0.4	0
4半旬	0	0	2.5	1.1	0	0.4	0	0.4	0	0
5半旬	0	0	1.5	2.1	0.1	0.2	0	0	0	0
6半旬	0	0.1	0	0.8	0.9	0.2	0	0.2	0	0
平年数	5		5		5		5		5	

4. モモシンクイガ 発生量 多

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、余市町B（慣行防除）で平年より多く、長沼町及び余市町A（慣行防除）で平年並であった。長沼町の予察園における産卵数は平年より多く、被害果率の上昇は平年より高かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市、札幌市、壮瞥町及び増毛町いずれの地点においても平年より多かった。

予察園におけるモモンクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	64	30.9	17.3	8.7	51.4	21.8	254	29.3	64	0.8
2半旬	89	47.2	24.9	10.4	52.1	22.7	249	55.8	87	12.8
3半旬	132	69.2	34.3	14.3	52.1	24.4	302	114.8	100	42.0
4半旬	134.7	146.3	13.6	19.7	96.4	30.1	172	174.3	100	77.5
5半旬	66.7	125.5	11.9	28.8	93.4	35.5	105	141.5	100	96.8
6半旬	109.7	147.2	15.1	38.9	99.1	57.1	129	159.6	100	99.2
平年数	10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。産卵数は100果あたりの卵数。

一般園におけるモモンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		壮瞥町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	18.1	4.0	64.9	19.1	15.6	4.3	11.4	0.0
2半旬	31.4	8.4	57	27.4	16.8	6.1	21.1	0.2
3半旬	64.2	10.4	40.7	37.0	13.2	7.6	26.1	0.2
4半旬	80.8	15.2	67.5	33.7	37.9	9.5	30	0.4
5半旬	68.3	20.2	47.4	32.4	17.9	7.4	19.7	0.6
6半旬	43.7	23.8	25.0	36.4	16.7	9.1	33.3	0.6
平年数	10		10		10		10	

5. ハダニ類 発生量 少

予察園において、リングハダニ及びナミハダニはいずれの地点においても発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リングハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.8	0	2.6
2半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.0	0	0.2
3半旬	0	0	-	0	-	0	0	0	-	0	-	0.1
4半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.9	0	0.8
5半旬	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	2.3	0	0.4
6半旬	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	3.9	0	0
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 30葉あたりの寄生数。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) -は未調査

6. キンモンホソガ 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、余市町AおよびB（慣行防除）で平年よりやや多く、長沼町で平年より少なかった。被害果率は、長沼町で平年より低かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市で平年並、石狩市、壮瞥町及び増毛町で平年より少なかった。札幌市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2	8.3	86.9	35.1	15.6	48.7	0.3	0.4
2半旬	1	7.9	73.6	35.2	18.9	46.9	0	0.4
3半旬	0	6.9	47.9	36.5	25.7	39.3	0	0.1
4半旬	0	7.9	16.4	41.4	147.9	45.1	0	0.3
5半旬	13	8.4	16.9	35.4	177.4	104.5	0	1.0
6半旬	9	12.7	38.9	66.1	224	288.2	0.3	1.1
平年数	10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	29.7	14.6	0	0.6	3.2	14.8	1.7	41.4	27.9	130.8
2半旬	20.7	15.1	0	0.4	3.2	28.9	2.3	57.6	32.4	118.4
3半旬	5	17.5	0	0.5	0	34.5	0.1	41.5	26.6	89.7
4半旬	1.7	8.0	0	0.2	0.8	40.6	0.7	35.5	16.3	76.6
5半旬	1.2	8.9	0	0.2	3.3	30.6	0.1	14.8	79.8	61.4
6半旬	5.1	12.4	0	0.8	0.9	10.8	1	31.1	140.4	66.0
平年数	10		10		10		10		10	

令和 7 年

6月1日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。



https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/

令和7年度農薬危害防止運動

農薬の適正使用 農林水産省 検索

北海道

令和7年6月1日～8月31日

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法などについては、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」をご覧ください。

URL <https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課